

# 極軸望遠鏡を使った極軸の合わせ方

①北極星が見える平らな場所に、極軸がほぼ北極星を向くように赤道儀をおきます。

②三脚の高さを調整し、「水準器」の赤丸の中心にアワを入れます。  
(別売の三脚アジャスターを使いますと、調整が便利です。)

③「照明装置」を極軸の前に付け、スイッチを入れます。  
(照明装置の使い方参照)

④赤緯軸が極軸に対して、ほぼ垂直になるように「鏡筒」の向きを変えておきます。

注※上の調整をしないと、極軸望遠鏡の前側がふさがった状態になり、極軸望遠鏡が使えません。

⑤極軸望遠鏡をのぞきながら「視度調整環」を回し、スケールにピントを合わせます。

⑥標準子午線(日本では東経135°)と観測場所との経度差を地図などで調べておきます。

(例) 東経140°で観測する場合

$$\text{経度差} = 140^\circ - 135^\circ = 5^\circ$$

観測場所が標準子午線の東側(East)にあるときは、月日目盛をE側に経度差だけ回して指標線に合わせます。西側(West)にある時はW側に経度差だけ回して合わせます。

⑦「赤経目盛(時刻目盛)」の0時を「赤経指標」に合わせ「目盛環固定ネジ」で固定します。

注※極軸合わせ以外の観測時は「目盛環固定ネジ」をかならずゆるめてください。

⑧「赤経クランプ」をゆるめ極軸を回して、「月日目盛」の観測月日と観測時刻を合わせます。

⑨極軸望遠鏡をのぞきながら、「方位」および「高度調整ネジ」を回してスケールの小円に北極星をいれます。

⑩歳差現象で北極星の位置は年々かわります。かわりかたは、ごくわずかですが極軸をより正しく合わせるために観測する年に応じて図の位置に北極星を入れて下さい。

